

第18回 寺井地区 駅伝競走大会

令和4年10月16日(日)

令和元年は台風19号、2年及び3年はコロナ禍のため中止となり、4年ぶりの開催となりましたが、町民の皆様の沿道での応援と選手の皆さんの頑張りで第7位となりました。

来年は上位入賞を目指して頑張りましょう。



選手の皆さん

南 祐生 | 中 敬祐 | 石田 和月 | 中 裕介 | 東方賢太郎 | 南 直樹



第83号

- ◆発行日 令和4年12月23日
- ◆発行者 石子町公民館
- ◆発行責任者 棗 左登志



公民館長として四年間、自分なりに精一杯務めさせていただき、大過無く任期を終えようとしております。これもひとえに、役員をはじめ町民の皆様の多大なるご支援、ご協力の賜であり心から感謝申し上げます。

顧みますと、一年目の令和元年度は、概ね計画どおりに行事を実施することができました。しかし令和二年度からは、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、徹底した感染予防対策講を講じたうえで、何とか実施が可能と判断できる行事を選択しながら実施してきました。

公民館行事は、町民の皆様が相互コミュニケーションを図るうえで大変重要な役割を担っていると思えますが、この三年間はコロナ禍で役割を十分に果たすことができませんでした。現在は、移動制限が緩和され国内はもとより海外からも多くの観光客が石川県を訪れています。マスクについても屋外や屋内でも至近距離で会話しなければ着用する必要はなく、また、オミクロン株対応ワクチンの接種も始まり、重症化リスクは日々低減している状況です。

私自身は年明けの左義長を最後に公民館長の役割を終えますが、令和五年度は必要な感染予防対策を講じながら、全ての公民館行事が実施できることを願っております。四年間本当にありがとうございました。



二〇二二年 三月終り

石子町会長 中 誠

三月の終わりは、暖かい日や寒い日、突風が吹き荒れる日など、色々変化の大きい季節です。昔は、「苗代づくり」の時期で、その日に限って、あられが降ってきて、寒さに震えて作業をしていたことが思い出されます。今年も、先日、強風が吹き荒れ、石子町案内看板(寺井道の石子の入り口に設置)が倒されました。東京でも、三月二十四日は最高温度が四度までしか上がらず、雪が降ったり、真冬の寒さでした。そこに、北地方の震度六強の地震で発電所が止まり、電気が不足する恐れが発生し、「電力需要ひっ迫警報」が出され大騒ぎでした。

新型コロナウイルスの感染もなかなか収束の兆しすら見えません。昨年の十一月、十二月は、石川県の感染者数が毎日数人、感染者ゼロの日もあり、そのまま収束に向かうのかな、と期待していましたが今年に入り、オミクロン株が出現し、第六波の大流行となり、今までより多くの感染者が出て、今日も続いていきます。(まん延防止等重点処置)は三月二十一日に終了しました。が)今年も、色々の行事が中止や縮小せざるを得ないのかな、とがっかりする気持ちです。しかし、春は確実にやってくるのであります。先日も大相撲春場所が終わり、新関脇の若隆景が初優勝し、若隆景のしご名の由来や、祖父の懐かしい若葉山などの話題を大いに提供してくれました。(しご名は、毛利元就の「三本の矢」に由来するそうです。)春の甲子園も開催され、星稜高校の活躍に力が入っていました。プロ野球も始まり、新人選手が大活躍をして大いに盛り上がっています。また、サッカーのワ

ールドカップの予選が行われ、日本が無事予選を勝ち上がり、興奮しました。政治の世界では、昨年十月、新しい首相が誕生し、前首相と比べ、明るい感じで、そして、大分コロナの対応にも慣れたのも手伝い、今年はず年の暗い気持ちと変わってきています。石川県にも二十八年ぶりに新首相が誕生し、未来志向的な気分になっていきます。

コロナ禍はまだまだ続くとはいいますが、「ウィズ コロナ」、感染対策を十分とって、細心の注意をして、色々な行事やイベントを行ない、おもしろいものを食べて、大いに笑って楽しむことを期待したいものです。

長生会会長あいさつ

長生会会長 海野 辰夫

令和二年からの長引くコロナ禍との付き合いで生活様式そのものが一変してしまいました。石子町老人長生会活動も停滞し、活動そのものが制限されました。今年度の行事で会員の皆様を楽しみにしていた、春の行事、観桜会(和田山周辺の散策)、秋の一行、観桜会(和田山周辺の散策)の状況により中止となりました。その他の行事は、役員による毎月第二、第四水曜日(湯野小学校「見守り隊」)活動、六月には墓地清掃、六月からは「いきいきサロン」が実施されています。八月には墓地、神社清掃を四十名以上の参加で実施が出来ました。また十二月には、今年度最後の恒例行事の報恩講が開催され、五十八名の会員の出席で、今年亡くなられた会員の追悼法要も行われました。コロナ禍の中、会員の皆様のご理解とご協力を頂き感謝しています。今年も残り少ない日々となります。

新型コロナ罹患体験記

中年会会長 中田 健市

た。新型コロナウィルスの感染が増加傾向に転じて心配な状況ですが、元の日常生活を取り戻そうと少しずつ世の中が前進している様に感じています。五回目ワクチン接種で感染者の重症化リスクの低下もありコロナと共存の社会と見え合い、身体の健康と心の健康を両立させる事も重要であると思えます。高齢者が自宅に引きこもる事で、筋肉低下予備軍が増えていると危惧されています。コロナの感染に十分注意してコロナ禍であっても健康寿命を保ち、楽しい魅力のある活動をして頂きたいと思えます。

来年には、マスク無しで外を歩ける日常に戻って欲しいものです。

令和四年八月三日(水)晩に喉の痛みと、発熱を感じ市販の検査キット(研究用)で検査をするも陰性でした。八月四日(木)朝、懇意にしている医師に電話して発熱外来へ何う旨告げると、研究用のキットでは陰性になる可能性が高いと指摘されました。オンライン診療で症状等を確認され九分九厘間違いないので保険所に感染の届け出がなされました。発熱外来には来なくて良いから、保健所から送られてくる検査キット(医療用)で陽性になったら確定ですと宣告されてしまいました。その後、保健所から送られてきたキットではしつこくCとTのラインが確認され新型コロナ感染者と確定されました。研究用と医療用ではかなり検査精度の違いがあるようです。

仕事柄もあって厳格に決まりには従います。・疑いを持った八月三日から隔離開始で一室を与えられ部屋に入ってバイ菌になった気分です。食器やコップは紙製でそのままゴミ

袋に廃棄です。洗濯物は漂白剤につけ込み除菌されて、別個に洗濯機で洗われます。この超特別待遇がよりわびしさを醸し出します。発熱と倦怠感、四日の晩に飲んだ解熱剤がしつかり効いて五日には鼻声だけにまりました。問題はここからです。体調が回復してからの長い療養が続きます。与えられた部屋の掃除と整頓もすぐに終了します。次は何をしよるか。・日中は誰にも接触することのないように庭木の剪定作業に精を出してなんとか時間を費やします。汗を出しての作業なので、水分補給を怠りません。熱中症で救急搬送されても引き受け手がいません。(アハハ!)

私の場合はほとんど無症状に近い経過で、携帯に登録したマイハースから毎朝、就労制限解除の日まで健康状態入力フォームが届きますが、異常なしの返答を送り返すだけで済みました。無症状です。とてつもなく長く感じた制限解除までの日数を過ごして、なんと十四日(日)を迎えることができました。この間、家族・通院の患者様には大変な迷惑をかけてしました。自営業(接骨院のワンオペ)であるので予防対策は取っていません。たつもりですが、それでも感染するときは感染します。濃厚接触者の家族に陽性者がなかったことが救いました。

後で、保健所から送られてきた書類には「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第十八条第二項に規定する就業制限業務及びその期間の法令に処せられるとあります。これはキツチリ守りましたよ。と、コロナ過もあって中年会の行事に迷惑を掛ける事なく済みしました。これから第八波とインフルエンザの心配があります。来年こそはマスクなしで、ぴよんと飛び跳ねるうさぎ年でありませうように!



五月晴れの寺井グラウンドゴルフ場（泉台）で徹底したコロナ対策のもと、多くの町民の皆様にご参加いただき、男性の優勝はホールイン・ワンを二回達成した南重厚さん、女性の優勝は宮下時子さんでした。

町民 令和4年 5月8日 グラウンドゴルフ大会



選手の
皆さん

中 義晴 | 中 功 | 南 重厚



久保田捷宣

寺井地区の各町から二十三チーム（一チーム四名）が参加し、チーム対抗の団体戦と個人戦に熱戦が繰り広げられました。石子町からも一チームが参加し団体戦は惜しくも入賞を逃しましたが、個人戦では第四位に久保田捷宣さん、第五位に中義晴さんが入賞しました。

第十八回 寺井地区 さわやか グラウンドゴルフ大会 令和4年 6月19日



コロナ禍で三年ぶりの開催となり従来とは異なる内容での実施となりました。町対抗競技は男女混合リレーのみでしたが、石子町は選手が揃わず不参加でした。今回初となった校下対抗競技では湯野校下選手として石子町からも参戦し、紅白玉入れ競技において圧倒的大差で優勝しました。令和元年の玉入れ競技優勝町として面目躍如を果たせました。

第18回 能美市民 令和4年10月2日 スポーツフェスティバル in てらい



「コロナ禍」のつらさを語り合う会 南 恵美子

石子町の多くの会で会員数の減少が悩みの種となつていますが、「中年婦人会」も然りです。もつと気軽に参加できる魅力ある会にしたいと言ふ思いから、四年前に「さくら会」と改名しました。より一層の活動の機会をと考えていたましたが、新型コロナウイルスのまん延で、予定していた行事の多くが中止となり、ここ数年は農村広場やお墓の清掃のみの静かな活動となりました。

そんな中、新型コロナウイルスが少し落ち着きを見せた今年七月、久しぶりに勉強会を開催することができました。エネルギーについての講演やプリアードフラワーのアレンジメント講座、和やかな雰囲気の中でとても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

制約のない以前のような日常が一日も早く戻ることを期待しながら、少しずつ活動の場を広げ、会員の皆様が輝ける会になればと思つていきます。

さくら会へのご参加をお待ちしております。

子供の頃の記憶力 壮年団長 細川 尚哉

平素は壮年団活動にご協力を頂きありがとうございます。

現在壮年団は三十代前半から五十代半ばの有志で構成されており、団員数は約三十名です。

四十四歳以下の団員数は寺井校下の中では中位で、石子町の世帯数の割合に比べて多く、石子町の団結力をいろいろな意味で感じます。

さて、昨年流行つてなんとなく覚えたヒット曲の歌詞を小学生の息子は覚えていたのに私は出てこないことがあり、記憶力が・・・と嘆いてしまうことが多くなりました。しかし私も四十年前の子供のころに覚えた曲や小学校の校歌などはなぜか覚えており記憶つて、子供の頃覚えたことの方が忘れにくいのかなと思います。

今年二月にはロシアがウクライナに侵攻しました。そのことでふと大正生まれの亡くなった祖父から子供の頃に教えてもらったロシアが出てくるしりとりの歌を思い出したので紹介させていただきます。

始まった たかちゃんぽ ぽんがり 陸軍の
乃木さんが 凱旋す すずめ メジロ ロシヤ
やばんこく クロバトキン 金の玉 負けて
逃げるはちゃんちゃん棒 棒で叩くは犬殺し
シベリア鉄道ないけれど どびんの口から吐
きだせば バルチック艦隊全滅し 死んでも
構わぬにっぽん兵 兵隊並んどつとこと
富山のお城で一発ドン ドンがなつたらひら
(昼)がりや やあやあまま炊いて食わさせた
狸のお汁はつまかった

音で覚えたので文章にするとおかしな言葉はありますがこんな感じで覚えていきます。歌詞の内容から祖父が子供の頃の昭和初期に、日露戦争を題材にした流行り歌でしょうか。知つてるとよという方いらつしゃれば何の歌か教えてほしいと思ひ紹介させていただきます。

「あいさつ」 女性会会長 東方亜希子

「可哀想つて言わないでください。」ある読み物で目にした言葉に、ハツと気づかされました。コロナ禍で入学式や卒業式、運動会・修学旅行も行えなかつた高校生の叫びです。私たちが親世代は、自分と同じような経験ができなかつた子供達を可哀想と思つてしまっています。でも、今を生きる子供達は、この環境の中で、今まさに幸せで、小さな成功を少しずつ成し遂げています。悲観的な自分の感覚を指摘され情けない気持ちになりました。課題満載のこれからの世の中、大切なことは、きっと今も昔も、老若男女、変わることなく、一期一会、今の自分としっかり向き合つていくことだと、改めて自分を見つめ直す機会となりました。

コロナに翻弄される生活も、もう三年。最近では、以前の生活に戻すのではなく、今をどう生きるべきか、と試行錯誤する勢いが出てきました。石子町女性会も、今後の在り方について考えることになりました。慢性的会員減少対策、町の中でのこれからの役割などについて、全員にアンケートやヒアリングを行った結果、解散する運びとなりました。

これからはそれぞれが一町民として、石子町を支えていくこととなります。変わる時にはエネルギーが伴います。この変化が石子町にとってプラスのエネルギーとなりますように。



こんにちは赤ちゃん

中

葉月 はづき 3班



父：敬祐 母：美沙

令和四年八月十二日、中家に次女が誕生しました。名前は葉月（はづき）と言います。長女の時は新型コロナウイルスの影響で立ち会いができませんでした。ですが今回は付き添うことができました。そのおかげで長女の時に体験できなかった感動を味わうことができました。更に妻の大変さも少しだけですが垣間見ることができて改めて長女と次女を産んでくれたことに対して感謝できました。名前は長女の蒼葉の葉を取り、また八月産まれたということもあり葉月と名付けました。

散歩などで見かけた時には気軽に声をかけてやってください。

【お詫びと訂正】

82号館報のこんにちは赤ちゃんの記事で、中葉莉さんのお母様の名前に誤りがありました。大変申し訳ありませんでした。 誤：添美子→正：恭美子



三年ぶりの開催でしたが、室内競技のため選手と関係者以外は会場の寺井体育館には入れず、家族等の応援がない中での試合となりました。選手の中には精一杯プレイしましたが、残念ながら予選敗退でした。来年こそは予選突破に向けてがんばりましょう。



第17回

寺井地区

ソフトバレーボール大会

令和4年10月16日(日)

選手
の
皆
さん

中 裕介、中 恭美子、中川 真知、中川 澄香、西井翔太郎、東方亜希子



◆ 石子町防災訓練 ◆

令和4年10月23日(日)



コロナ禍で令和二年と三年は町役員等に限定した参加でしたが、今年は三年ぶりに町民全員が参加しての防災訓練となりました。当日は午前八時三〇分に加賀地方北部を震源とする震度六弱の地震発生との想定で、町災害対策本部から無線放送で地震発生を伝え、隣組リーダーなどが全戸に声掛けを行い、その結果を本部に報告しました。その後防災備品の点検・確認と展示を行いました。防災機器が上手く作動せず、継続した訓練の重要性を再認識させられました。また、今回は八月豪雨での梯川等の氾濫による災害の発生を踏まえ、石川県庁河川課勤務の西井康雄さん（石子町第三班）を講師に招き、水害・土砂災害から「命」を守るための準備行動や避難行動について詳しく解説していただきました。



左義長の告知

二〇二三年の左義長は
 一月八日(日)を予定しております。
 ご参加をお待ちしております。



編集後記

毎年、この時期になると一年を振り返り、達成感や後悔、不安や充足感といった感情が湧いてきます。今年も様々な出来事があり、その一つ一つが私の人生を彩っていきました。

たとえ今が苦しくても、たとえ今が幸せでも、長い目で人生を捉え、一喜一憂せずに周りへの感謝を忘れず、日々精進していくことが大切なのではないかと思いが、来年も生きていこうと思えます。石子町民の皆様、記事の作成に協力頂いた皆様に感謝申し上げます。